

令和4年度 太尾小学校の学校経営について

学校教育目標

豊かに学び ともに未来をひらく 太尾の子

- 【知】自ら学び、考え高め合い、生きてはたらく確かな学力を身につける太尾の子。
- 【徳】自己肯定感と思いやりの心をもとに、豊かな心を育み、よりよく行動できる太尾の子。
- 【体】健やかな体をつくり、健康で安全に生きる力を育む太尾の子。
- 【公】太尾のまちに学び、まちを愛し、まちに生きる太尾の子。
- 【開】太尾のまちの、横浜の、持続可能な社会の未来をひらく太尾の子。

探究する力



本校の教育課程全体で
育成を目指す資質能力

挑戦オズカ



コミュニケーションする力



小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組

- 1 主体的に学習に取り組む子ども ~学び合う~
- 2 あいさつができ、友達や地域との関わりを大切にできる子ども ~関わり合う~
- 3 自分の良さを活かしながら夢や目標に向かってチャレンジする子ども ~未来を創る~

- ① 主体的な学習を引き出す学習の在り方について探り、各教科で身につけさせたいことを小中で共有できるようにする。
- ② 学習の中で協働的な学びの場面をつくったり、地域を活用したカリキュラム作りを設定したりする。
- ③ 子どもたちによる主体的なあいさつ運動を全校展開していき、家庭、地域の啓発に努める。
- ④ 授業参観や合同研修会などで児童生徒理解を深め、それぞれの発達段階において子どもたちのよさや成長を認め、9年間を通して自己有用感を育てていくことを目指す。



今年度の学校経営方針の重点



学校経営のキーワードを「学びのオーナーシップを子どもに ~決める~」といたしました。

「オーナーシップをもつ」とは、自分のこと、自分たちのこととして考える当事者意識をもつことであり、一人ひとりが自分、他者の双方および社会（ともに生きる生活圏）に責任をもち、それらを大切にする姿勢をもつことです。

そして、オーナーシップをもつ根源的なことは「決める」という営みにあると考えました。

学校生活の中で、子どもが多くのことを決めながら考えを進めたり、活動を続けたりするようにします。その際、子どもは、自分が決めたことに自信をもって取り組み始めるものの、不安や疑問を抱え、思い悩みながら進めていくことでしょ。その時の子どもの素直な発想や困っていることに、周りの大人や子どもたちが関わることで、対話が生まれ、学びが深まっていくように進めていきます。

また、子どもたちに「決める」場面があるということは、授業や生活の主導権を子どもたちに委ねることです。子どもたちは、自分たちで決めたり、選んだりした問題であれば「何とか解きたい！」と意欲的になるはず。このような姿を求めていきたいと考えました。

「主体的・対話的で深い学び」により課題解決能力を育成することが求められる今、与えられた課題を教えられた方法で解けるようになるだけでは、不十分ではないでしょうか。自分たちで課題を決め、失敗を恐れず解決の方法を見つけようと粘り強く考え抜くことは、これからの社会を生き抜くために育成すべき子どもたちの姿、さらに言うならばこれからの社会を生き抜く人間の姿と言えましよう。

そして、「決める」こととともに大切にしたいことは「決め直す」ということです。決めたことを貫き通すことは大切なことですが、まだまだ未分化なことが多い子どもは特に再挑戦することが重要であると考えます。この時に「決め直す」行為が生まれます。この行為は「決める」ことよりの高次のことが子どもに要求されることを学ぶことがその子どもの成長につながると考えました。

「決める」ことを大切にしたい学校経営は、選択の自由が、責任意識と子どもたちによる自治につながり、学びのオーナーシップ(当事者意識)を生むことになるはず。

このような思いを「学びのオーナーシップを子どもに」というフレーズに込めてみました。